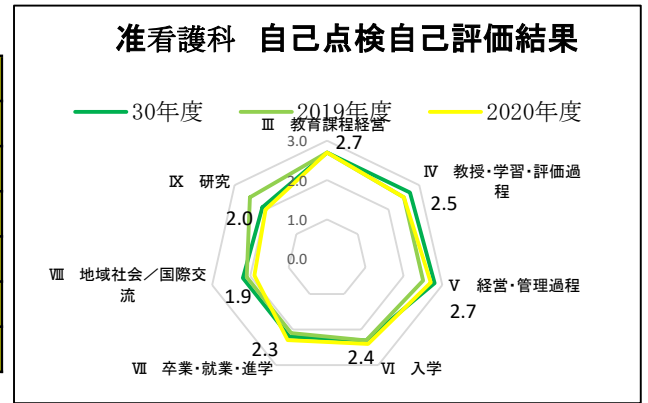


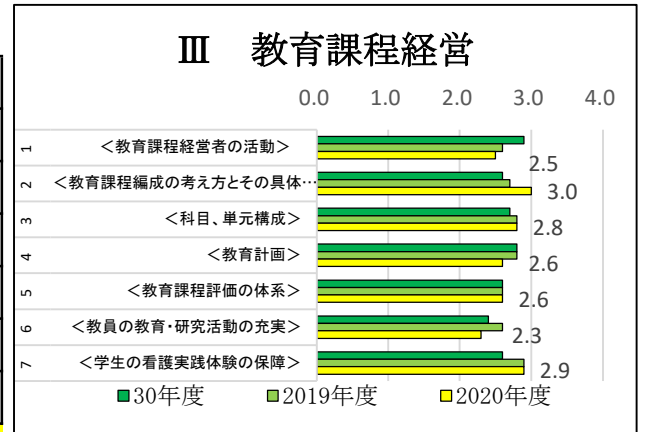
平成30・2019・2020年度 自己点検自己評価結果 准看護科

2020

	30年度	2019年度	2020年度
III 教育課程経営	2.7	2.7	2.7
IV 教授・学習・評価過程	2.7	2.5	2.5
V 経営・管理過程	2.8	2.5	2.7
VI 入学	2.3	2.3	2.4
VII 卒業・就業・進学	2.2	2.1	2.3
VIII 地域社会／国際交流	2.2	2.1	1.9
IX 研究	2.1	2.5	2.0

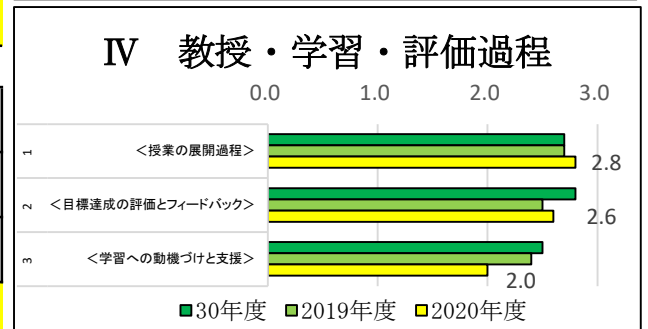


III 教育課程経営	30年度	2019年度	2020年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.9	2.6	2.5
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.6	2.7	3.0
3 <科目、単元構成>	2.7	2.8	2.8
4 <教育計画>	2.8	2.8	2.6
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.4	2.6	2.3
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.6	2.9	2.9



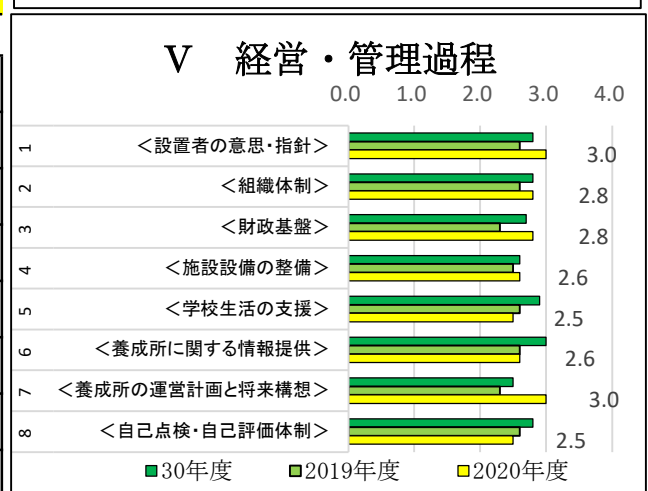
平均 **2.7** **2.7** **2.7**

IV 教授・学習・評価過程	30年度	2019年度	2020年度
1 <授業の展開過程>	2.7	2.7	2.8
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.8	2.5	2.6
3 <学習への動機づけと支援>	2.5	2.4	2.0



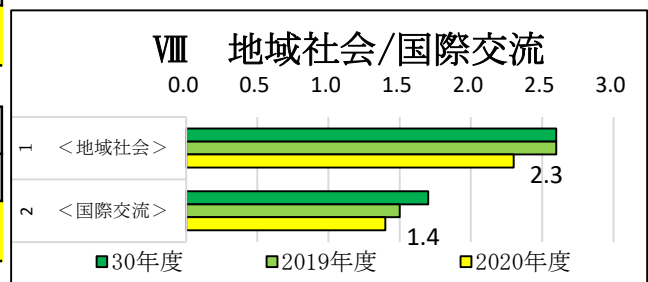
平均 **2.7** **2.5** **2.5**

V 経営・管理過程	30年度	2019年度	2020年度
1 <設置者の意思・指針>	2.8	2.6	3.0
2 <組織体制>	2.8	2.6	2.8
3 <財政基盤>	2.7	2.3	2.8
4 <施設設備の整備>	2.6	2.5	2.6
5 <学校生活の支援>	2.9	2.6	2.5
6 <養成所に関する情報提供>	3.0	2.6	2.6
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.5	2.3	3.0
8 <自己点検・自己評価体制>	2.8	2.6	2.5



平均 **2.8** **2.5** **2.7**

VIII 地域社会／国際交流	30年度	2019年度	2020年度
1 <地域社会>	2.6	2.6	2.3
2 <国際交流>	1.7	1.5	1.4



平均 **2.2** **2.1** **1.9**

2020年度 重点課題に対する評価 准看護科

1. 学生が講義や実習、「成長・目標ファイル」を通して、看護に対する自分の思いや考えを表現でき目標をもって主体的に取り組めるように支援する。

- ①チューター制や役割・担当による面接を行い、学習状況や看護への興味関心の程度を把握して学習支援を図る。
- ②学習面や学校生活の問題においては、教員間の連携を図り、問題解決や円滑な学校生活の環境づくりに取り組む。
- ③看護に対する思いや考え、また実践後の喜びや楽しみを学生の語りの中から引き出し、新たな目標につながるように支援する。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が出されたり、3密を避ける行動を強いられたりして、学生には様々な制限や制約がある中での教育となった。1年生においては、入学早々休校となり、学生同士や教員との交流が十分に図れないまま、退学となるケースもあり、学生の戸惑いや悩みに早期に気づくことができなかった。また授業や実習におけるコロナ対策に追われて、学生とかかわる時間も少なかった。そのため、チューター面接においては、接触を避けなければならない状況と学生をフォローするための面接とが相反することとなり、十分な学習支援ができなかった。さらに、教員間の連携がうまく図れず、学生への影響を最小限にすることで精一杯となった。これらの状況や意見から教員の達成度は4段階評価で2.5と低かった。しかし、2年生の卒業時におけるアンケートでは「看護に対する考えを深め自己の看護観を持つことができる」に対する学生評価は、3段階で「3できた」とする意見が63.3%であり、例年と比して差はなかった。

2. 基礎看護技術の基本となる「安全・安楽」と「感染防止」に取り組み、根拠に基づいた知識や技術を身に付けることができる。

- ①基礎看護技術における科学的な根拠を理解して基本にもとづいた看護行為が実践できる。
- ②感染症とその対策について理解し、学校生活(講義・演習)や臨地実習で実践できる。

1年生の基礎看護技術の授業においては、学生同士の接触を控えながらの演習や自己練習であり、練習時間の制限や実習室の使用制限などから技術習得が困難な環境下での教育となった。技術チェックの結果は、1回目での合格率が2019年度は81%であったが2020年度は59%と低かった。2年生の5月は緊急事態宣言下で、臨地での基礎看護実習ができず、学内実習へと変更になった。6月中旬からの領域実習は、実習施設や病棟の変更を行いながら何とか実習ができた。卒業時の「基本的な援助の実践」と「看護の知識や技術の習得」では、約半数が「3できた」という結果であった。また母性実習では、後期から病棟実習ができず学内実習となったが、「命の尊厳についての理解」に関する卒業時アンケートの意見で、母性実習を通して深く考えることができたとする意見が多く(93.3%)あった。

感染防止に関しては、学校生活や臨地実習において学生・教員ともにしっかり予防行動に取り組むとともに実践できことで、新型コロナウイルス感染者を出すことはなかった。

3. 福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率(70%)を目指す。

福岡県の准看護師試験合格率は、前年度より2.7%上昇し98.6%であった。本校においては11年連続全員合格が達成できた。また卒業生のうち、看護専門課程(2年課程)への進学希望者は全員進学できたが、進学率は63%にとどまり目標の70%に達することができなかった。2019年度(進学率62.5%)以降、低下が続いている要因としては社会人(子育て等)入学者の増加および経済的な理由で進学を断念していると考えられる。

一方、就職希望者は3月中に全員が就職できた。

2021 年度 重点課題 准看護科

1. 全教職員が一丸となって新カリキュラムを構築し、2022 年度からの開始（運用）できる準備を行う。
 - ①定期的なカリキュラム検討会を開催し、役割を分担しながら資料の準備、申請資料の作成を行う。
 - ②疑問点や不明な点は共有しながら、新しいカリキュラムを理解する。
2. 学生・教職員間で新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、教育活動が継続できるように取り組む。
 - ①体調管理や行動記録の継続（長期休暇後は特に注意して確認する）
 - ②手指消毒の徹底と換気、3密の避ける行動の徹底
 - ③感染症発生の場合の速やかな対応（マニュアル作成、新しい情報の収集）
3. 学生の学習面（実習を含む）や学校生活における教育上の課題においては、教員間の連携を図り、問題解決や円滑な学校生活の環境づくりに取り組む。
4. 福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率 70%を目指す。